

平成30年 2月6日 火
3月18日 日

かつしか 絵図風土記

— 描かれた東京低地 —



現代に生きる私たちは地図をはじめとして多様な手段を使って、生活する空間を認識することができます。地図の登場は、明治維新以降、西洋の測量技術が導入されて以降のことで、古代以来長らく絵図が用いられました。測量地図は、一定の方式に従って、可能な限りの情報が盛り込まれますが、絵図は必要な情報しか描かれない主題図です。絵図は、7世紀古代律令国家の成立以降、官撰・私撰の二系統で作成され、「古地図」「地絵図」ともいわれてきました。

葛飾区一带は、江戸時代初頭まで利根川の主流が南下した東京低地に位置し、近世には武蔵国葛西領、近代には東京府南葛飾郡と称されました。この展示では、多様な絵図類・地図類や浮世絵等に描かれた東京低地を紹介し、江戸から現在へ継続してきた地域の歴史を、絵図類から読み取り、現在では大きく景観を変えたかつての姿を想起起こす機会となれば幸いです。

- 展示構成
- I. 地域を描く
 - II. 村を描く
 - III. 施設を描く
 - IV. 川を描く

●関連講座 河川環境学 描かれた河川
平成30年2月24日(土) 午後2時～4時
橋本直子 当館学芸員

開館時間 午前9時～午後5時(入館は閉館の30分前まで)
金曜日と土曜日は午後9時まで開館
休館日 月曜日(祝日は開館)、第2・4火曜日(祝日は開館し翌日休館)
入場料 大人100円(80円)、小・中学生は50円(40円)
小学生未満無料(毎週土曜日は、中学生以下無料)
※(カッコ内は20人以上の団体)



アクセス 駐車場に限りがございます。電車・バスをご利用ください。

電車 京成線「お花茶屋」駅下車、徒歩8分
JR常磐線各駅停車(東京メトロ千代田線直通)「亀有」駅下車、徒歩25分

バス ①「レインボーかつしか」(有71・有72系統)または京成タウンバス(有70系統)で「白鳥わかば公園」バス停下車、徒歩3分
②京成タウンバス(有57系統)で「上千葉小学校」バス停下車、徒歩5分
③京成タウンバス(有57系統)で「共栄学園」バス停下車、徒歩5分

■ 展示構成

I 地域を描く: 近世以降に作成された官撰の国絵図のほか、江戸図・切絵図等の情報から葛西領の特色をつかんでください。絵図独特の表現方法から示された内容を読み取り、当時の葛飾区域の姿を知りましょう。

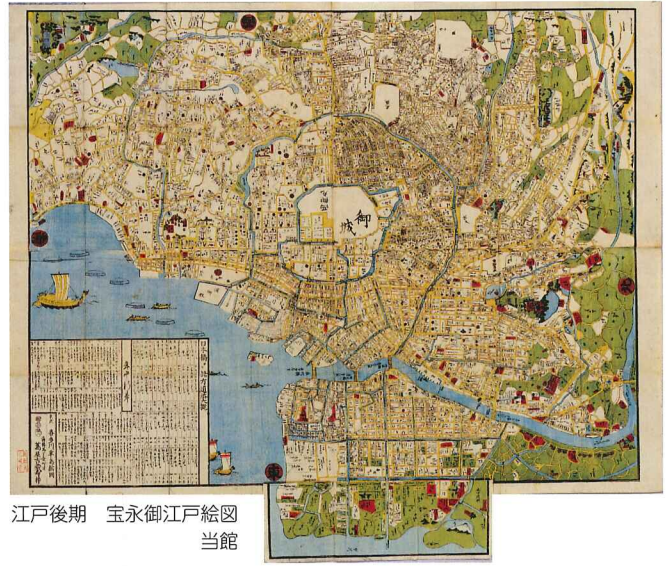
II 村を描く: 江戸時代の村々が近世に入り、編成されていく経緯を描いた図や、大縮尺の地籍図類を使って、当時と現在の景観を比較します。また、明治期以降の地図類から景観を復原する方法を紹介します。

III 施設を描く: 水戸道が江戸川を渡る地点に置かれた金町松戸関所の景観と河川環境を、絵図・地図・地形図・空中写真などから紹介します。嘉永2年(1849)小金原鹿狩りのために江戸川に架設された船橋と、区内の用水に関する絵図を展示します。

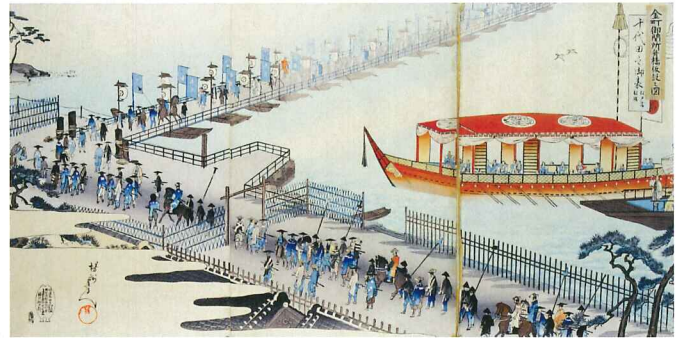
IV 川を描く: 関東平野全域が描かれた大型の河川絵図や、江戸川・中川に関する絵図を紹介します。幕末から昭和前期にかけて絵師たちが描いた浮世絵にみる東京低地の河川景観を展示します。



明治前期 東葛西領村々絵図 当館



江戸後期 宝永御江戸絵図 当館



明治30年 楊洲周延 千代田御表 松戸宿船橋 当館



嘉永2年 虎網残欠 個人蔵



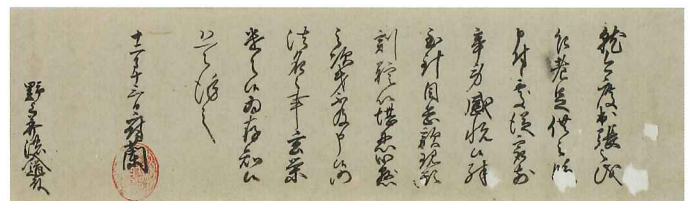
天保13年 古利根川中川通川流御定杭川幅間数改帳 個人蔵

■ 特別公開「文化財の窓」

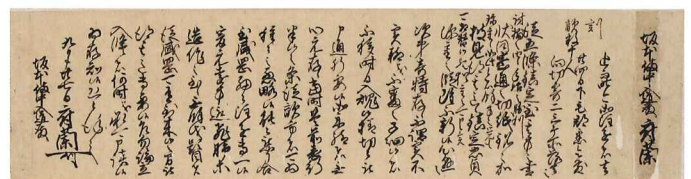
猿ヶ又村袋新田名主家には、九州の戦国大名大友氏関連の感状とされる古文書が卷子状で伝来していました。

平成27年度特別展「平成かつしか風土記—地域の継承と文化財—」(会期:平成28年1月17日-3月6日)出品のため、修復を行った結果、本来は書状の形態であったことがわかりました。

その後の調査で「九月廿七日」の府蘭(宗麟)の史料は、天正11年(1583)であることがわかりました。今後、さらに調査をすすめ、九州と葛飾を結ぶ糸をひも解いていきたいと思ひます。



年末詳 12月13日 大友府蘭書状(複製) 大分県立先哲史料館



(天正11年)9月27日 大友義鏡/宗麟(府蘭)書状 当館

発生から7年となる東日本大震災は、地域と歴史資料の大切さを、今なお私たちに問い続けています。地域の歴史の証人である文化財の保全は、今を生きる私たちの使命でもあります。展示とあわせて、ご参加ください。

●環境学講座「東日本大震災から民間所在の歴史資料保全を考える」

平成30年3月11日(日) 午後2時~4時
西村慎太郎 国文学研究資料館准教授